

1 学校教育目標
<p>地域社会と連携し、自然・文化・伝統を継承・発展させる活動に取り組み、高い意識をもって地域創生や地域貢献を担うグローバルな視点を持った、自ら考え行動できる人材の育成を目指す。</p> <p>【学校経営目標】</p> <p>(1) 幼保小中高連携による発展的な英語教育と I C T 特定推進校としての発展的な I C T 活用教育を実践する。</p> <p>(2) クリエイトハイスクール指定校として地元自治体や企業等と連携・協働した探究的及び創造的な質の高い学びを実践する。</p> <p>(3) マンガ学科の設置及び普通科グローバル探究コースの開設により、地域活性化策に連動した新たな学びによる特色化を図る。</p>

2 本年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・地元自治体や企業等と連携・協働した探究的創造的な質の高い学びを実践し、本校の魅力を更に高める。 ・学校及び学科の特色を活かした教育活動を推進し、情報発信等を通じて本校の魅力を更に高める。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	働き方改革を意識した業務改善に取り組む	持続可能な組織的な学校運営の構築	各学期の業務振り返りを行い、課題を分析・検証し、改善案を提示する	学校行事や校務分掌の取組を振り返り、取組の検証や課題解決に向けた改善案の提示を、毎学期実施する	3.0 (3.2)	学校行事ごとに生徒・職員にアンケートを実施し、成果と課題について検証することができた。今後もさらなる安定した学校運営ができるよう、年間行事や校内体制等を検証する必要がある。
	本校の魅力発信に取り組む	マンガ学科及び普通科グローバル探究コースの入学生確保のための組織的な取組の実践	本校の日常的な教育活動を SNS や特設スタジオの活用により、定期的に情報発信する	○オープンスクールや上級学校説明会において、高森町、コアミックス社、県教委と連携し生徒募集を行う ○TPCと連携し、校内スタジオを活用した、本校の魅力発信動画を作成し、情報発信を行う	3.5 (3.5)	○オープンスクールは昨年度と同様 2 日間の開催により、多くの参加者を迎え入れることができた。来年度は開催周知の時期を早め、さらなる充実を図る。 ○南郷学での動画作成や TPC との連携などにより、イベントの事前周知や魅力発信を行うなど、情報発信に努めた。
学力向上	生徒が自ら学びに向かう力を育む教育活動の研究	教科を超えた授業研究の体制づくり	公開授業週間における校内の相互参観を充実させる	○公開授業週間前に情報共有シートを作成し、参観のポイントを共有する ○公開授業週間のテーマを設定す	3.1 (3.2)	公開授業週間を 2 回設定し、第 1 回は 15 件、第 2 回は 11 件の参観があった。教務部内で授業改善に向けて協議したこともあり、積極的に相互に参観する職員が増えた。一部の

				る ○公開授業 週間中に研 究授業を実 施する		職員が参観できて いない現状もあり 今後も改善の取組 が必要である。観 点別評価も合わせ た授業研究の担当 者を置く体制づく りを検討したい。
		観点別評価の充 実	本校の現状を 把握したうえで、 観点別評価の実 施に向けて研究 する	○観点別評 価を実施す るうえでの 課題を把握 し、評価の 方法を改善 する ○観点別評 価の意義に ついて研修 等で理解を 深める	3.2 (3.4)	観点別評価の充 実に向けて、部 会等で協議す ることができ たが学校全体 での研修や課 題の把握は できていない。 今後は現状 把握を行い、 新たな教育 課程の情報 を取り入れ ながら、特 に主体性の 評価につ いて今後 検討をし ていく必 要性がある。
キャリア教育 (進路指導)	生徒の主体性を育むキャリア教育を推進する	地域連携事業とキャリア教育の一体化	地域に開かれたキャリア教育の充実を図る	インターンシップや行事等とおして本校の目指す生徒像や育成方針について広報活動を行う	3.2 (3.3)	管内企業に対し学校パンフレットや探究活動に関するリーフレットの配布ができた。また県の事業であるキャリアブリッジプロジェクトにおいて、県内高校では初めて熊本空港のSDGsミライパークへ訪問し、企業の取組について学ぶ機会を得られた。次年度は、地域の企業理解のための校内説明会を開催し、地域と連携したキャリア教育の一体化を図る。
		体系的な進路指導の確立	高森高校版進路のしおり「Lynx」とキャリア・パスポートの活用を充実させる	Lynxについては、各学年で運用するとともに、生徒の体験活動ごとにキャリア・パスポートを作成する	3.2 (3.3)	各学年で、高森高校進路のしおり「Lynx」の運用ができています。2年生ではLynxの記載内容を発展させた志望理由書作成プログラムのリクルートの協力のもと開始した。今後は校内の進路指導がより体系的になるように各学年で「CAP：進路達成プログラム」を企画する。
生徒指導	自らの強みを活かし、集団を意識して「自律的」に行	生徒心得（令和7年4月改定）の理解と、自律する態度の育成	生徒たちによる生徒心得の啓発と実践	生徒会が中心となり生徒心得の遵守の啓発活動を行い、あわせて、生徒心得の見直しも行	3.0 (3.3)	今年度も、生徒会執行部を中心に生徒心得の見直しを行った。スマートフォン等の情報端末の取扱いについて、情報モラル・情報リテラシーを

	動できる力を育成する			う		意識した生徒心得に改正した。また、服装等についても、これまでの制服を生かしながら、昨今の気候変動に合わせた着こなしができるように改正を行った。今後は、次年度から実施する新たなルールを理解してもらうために、生徒会を中心に啓発を行う。
		「いのち」を守るための交通安全指導	交通事故・交通違反「0」を目指す。自転車通学者ヘルメット着用「100%」を目指す	本年度から自転車通学者ヘルメット着用義務化を設定し、警察などの外部機関と連携しながら、交通安全を啓発する	3.0 (3.3)	今年度は例年より自転車通学生が増加したが、交通事故・交通違反は「0」（4年間継続中）であった。ほとんどの自転車通学者はヘルメットの着用ができている。未着用の生徒へは、引き続き交通安全を訴え、着用率100%を目指す。10月に親子の学びの機会を作り、高森警察署から道路交通法の改正について説明いただき、交通安全啓発を行った。
人権教育の推進	命を大切にできる心を育む指導の充実を図る	多様性を認め、自他を尊重し行動できる人権感覚の育成	文部科学省が推進するウェルビーイング（健康と幸福感）を取り入れ、生徒・職員・保護者が心身共に有用感を感じ、自尊感情が高まる取組を実践する	○職員が生徒へ「自分を語る」ことを目的とした、HR活動を実施する ○自他の大切さに気付き、自他を認め寄り添う取組として、自分の想いを綴る人権作文や人権レポートを生徒・職員全員で作成する	3.0 (3.3)	昨年度に引き続き「自分を語る」のテーマのもと、生徒は人権作文を職員は人権レポートを作成し、自らの思いを言語化し、綴ることで、自他を認め合うことの大切さを再確認することができた。
いじめの防止等	いじめを見逃さない、いじめを許さない態度を育成する	組織的ないじめの未然防止と早期発見	いじめ防止基本方針を確認し、組織的な動きを意識しながら、いじめ防止を啓発する	いじめ防止について学年・学科と連携しながら啓発を行う。問題発生時は、迅速に行動し、組織で対応し、問題の拡大を防ぎ、解決に向けた取組を	2.9 (3.2)	学期ごとに実施している「心のアンケート」や「スクールサイン」を利用し、様々な所から生徒の情報を把握し、いじめ拡大を未然に防ぐことができた。アンケート実施後は、組織的に各学年で迅速に対応できている。今年度は、ス

				行う		クールロイヤーに来校いただき、生徒・職員向けいじめ防止啓発の研修を行った。今後も啓発を続けていく必要がある。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域との連携強化による本校教育の特色化を図る	普通科グローバル探究コースとマンガ学科の教育の特色化(魅力化)の構築と、これまで築き上げてきた本校教育の良さの再発見	○高森町、コアミックス社、県教育委員会との四者での連携協定に基づいた魅力化を推進する ○普通科グローバル探究コースの魅力発信をさらに強化する	○四者による本校の魅力化に向けた定期的な会議を開催する ○小中学生向け交流イベントを開催する ○総合的な探究の時間に係る成果報告会を実施する	3.3 (3.4)	○年間4回の四者協議を開催し、本校の魅力化について協議した。 ○総合的な探究の時間に係る成果発表会を7月に、熊本大学等と連携した南郷塾寺子屋を8月に、高校生議會を11月に実施し、両学科の特色や魅力を発信することができた。
健康管理・安全管理	健康教育・保健教育を推進する	生活習慣の形成と心身の健康に関する生徒自身の自己管理能力の育成	講演会の実施や生徒保健委員会の活動を通して、心身の健康の保持増進を図る	○外部講師を活用した講演会を実施する ○文化祭での発表や保健だよりの発行等保健委員会活動を充実させる	3.0 (3.2)	11月に産婦人科の看護師による性教育講演会を実施した。生命の尊さ、妊娠、出産、LGBTQ+、デートDV等幅広く性について講演いただき正しい知識への理解が深まった。文化祭で本校の健康課題の1つである「睡眠」について保健委員会が発表を行った。発表を通じて理解は深まったが、今後の行動変容につなげていくことが課題である。
	健康教育・保健教育を推進する	生徒・職員の安全に対する意識の高揚	○4月のくまもと防災月間及び9月1日防災の日を機として、地域の特徴や季節に即した防災教育を充実させる	○4月に全校生徒と全職員を対象とするAED講習会を消防署の指導の下実施する ○1学期に防災避難訓練及び消火器使用訓練を実施する ○2学期にシェイクアウト訓練を実施する	3.0 (3.3)	○4月に消防署の指導によるAED講習会を実施し、全校生徒および全職員が参加して、救急救命法への理解を深め実践力を向上させた。 ○5月に防災避難訓練、11月にシェイクアウト訓練(緊急地震速報対応訓練)を実施し、授業時の発災に対する避難と状況報告の手順を確認した。

			○実用的な危機管理マニュアルの改訂作業に生徒及び職員の意見を取り入れ、全生徒と職員の防災意識を向上させる	○学校行事ごとの災害避難計画を改訂する ○危機管理マニュアルの災害対応に関わる初期動作を整理し実用性を高める		○上記の講習会、訓練をふまえ、危機管理マニュアルの災害対応の見直しを行った。
--	--	--	--	---	--	--

4 学校関係者評価

- 探究成果発表会やマンガ学科卒業制作展などにおいて、生徒の3年間の努力の成果を見ることができてよかった。今後のさらなる活躍が楽しみである。
- 高森町との連携と同様、南阿蘇村との連携も今後さらに深めてほしい。例えば、南阿蘇村でも中学生が参加することも議会を実施しているが、議会での提案内容を高校でも引き続き探究したり、村議会議員との意見交換を行うなどの検討をいただきたい。
- 今年度の入学者選抜における出願者数の減少について、その原因を分析し、さらなる情報発信を行うなど、来年度以降の生徒募集につなげてほしい。
- 町内に若者が増えて活気づいてきた。注目を浴びている今だからこそ、引き続き緊張感をもって教育活動に精進してほしい。

5 総合評価

- 今年度は保護者の学校評価アンケートの評価基準に「分からない」を新たに加えた。いじめ防止の組織的取組や環境教育・防災教育・交通安全教育の項目について、約20%が「分からない」と回答した。これらの項目について、本校の教育活動についての保護者への周知や情報提供が不十分であった。
- 昨年度の課題であった、職員の「働き方を意識した業務改革」では、「不十分である」と回答した職員が約15%減少した。学科改編後の完成年度として、年間行事の精選や校務分掌の見直しなどを行うことができた。

6 次年度への課題・改善方策

今年度、学科改編後の完成年度を迎え、3年間の教育活動を通じて、全体の見通しをもつことができた。今後、学校行事の精選をはじめ、普通科グローバル探究コース及びマンガ学科の教育課程の検討や、1期生の進路状況の分析など、3年間の様々な教育活動の成果と課題を整理する。また、オープンスクールや入学者選抜など、生徒募集に係る行事についても、本校の情報発信のあり方と併せて、四者協定の内容を踏まえ、さらなる魅力向上に努める。